

(仮訳)

金融安定に対する気候関連リスクをモニタリング・評価するためのデータの入手可能性に関する報告書

2021年7月7日

データギャップへの対処は、気候関連金融リスクのモニタリングを強化し、市場参加者が当該リスクをより効果的に意思決定に組み込むことを可能とする。

本報告書は、金融安定に対する気候関連リスクをモニタリング・評価するためのデータの入手可能性について検証している。この報告書は、気候変動に関する一連の金融安定理事会（FSB）の報告書の中で最新のものである。これまでの報告書には、「金融安定のモニタリングにおける気候変動に係る物理的リスク・移行リスクの考慮に関する金融当局の取組みの調査報告書」や「気候変動の金融安定に対するインプリケーション」がある。

気候変動による金融安定上のリスクは、その性質や規模において、金融システムに対する他のリスクとは異なる。気候変動は世界規模の現象であり、すべての法域の金融システムに影響を与える可能性がある。しかし、その影響は、エンティティ、セクター、経済によって大きく異なる。気候関連リスクは非常に非線形である可能性があり、金融システムへの影響には、大きな不確実性とテールリスクがある。

こうした気候関連リスクの特性は、その金融安定への含意をモニタリング・評価するために必要とするデータとも関わる。このデータは以下のようなものであるべき。

- 金融機関の気候関連リスクへのエクスポージャー、特に金融安定への脅威となり得る規模やその集中度を有するエクスポージャーを捉えるもの。
- 金融機関の気候関連リスクへのエクスポージャーの、グローバルな比較・集計を支援するもの。
- 金融安定に対する気候関連リスクのフォワードルッキングな評価を支援するもの。
- 気候関連リスクの移転や緩和を捉えるもの。

本報告書では、金融安定に対する気候関連リスクのモニタリングと評価を向上させるための重要なデータギャップに対処するための優先的な作業分野を示している（そのうちのいくつかは既に進行中である）。

- 気候関連リスクの根本的な要因に関するデータの入手可能性と一貫性を向上させること。
- 頑健なガバナンスと公的監視の下で、ベースラインとなる国際的なサステナビリティ報告基準を策定すること。FSBは、この点に関するIFRS財団の作業プログラムを歓迎する。
- 非金融取引先へのエクスポージャーから生じる金融機関の気候関連リスクへのエクスポージャーに関するデータの質と一貫性を向上させること。
- 民間のデータ提供事業者との連携を通じた取組みを含む、個別企業と金融システム全体のそれぞれのレベルにおける気候関連リスクに関するフォワードルッキングな指標の開発。
- 個々の金融機関の気候関連リスクへのエクスポージャーが、保険を付けることによってどの程度軽減されているのかを示すデータを拡張し調和させること。
- 気候関連リスクに対する金融システムの強靭性を評価する手段としてのシナリオ分析の実施に係る当局の経験を比較し、関連するデータギャップを特定すること。
- シナリオ分析に利用されるデータや分析手法を揃えるために、気候変動リスク等に係る金融当局ネットワーク（NGFS）が、金融当局が活用すべきシナリオを必要に応じて改良・開発し続けること。

これらの分野の作業は、当局のマנדートと国内の法的枠組みに適した方法で実施されるべきである。

本報告書は、他の国際機関との緊密な協調のもとで作成され、多くのインプットに依拠している。特に、バーゼル銀行監督委員会（BCBS）、保険監督者国際機構（IAIS）、国際通貨基金（IMF）、証券監督者国際機構（IOSCO）、経済協力開発機構（OECD）、世界銀行からの貢献の恩恵を受けている。また、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の作業からも情報を得ている。

この報告書は、NGFSのデータギャップの解消に関する作業部会を補完するものである。このNGFSの作業部会では、グリーンファイナンスの規模拡大の促進のためのデータの入手可能性などについてより包括的な評価を行っている。